

対談

i-works project

を支える木材とは

設計・施工の標準化により、高品質の建築家住宅をより多くの人へ届けることを目的とした「i-works project」。その実現に携わる3名がそれぞれの立場から、標準化住宅に必須の要素である高品質の木材について語る。3名の話から、これからの設計者・木材店・工務店の関係性が見えてくる。



設計者
伊礼智
伊礼智設計室

木材店
榎本崇秀
山長商店

工務店
柴修一郎
柴木材店

棟梁の「目利きの技」も受け継いだプレカット技術を追求

「#1. 「i-works project」の概要について教えたかったら。」

伊礼「「i-works project」は、建築家が設計した性能の高い住宅をリーズナブルな価格で提供しようと、5〜6年前に始めた「小さな家。計画」の発展形です。当初は工務店抜きで進めていたのですが、協力してくれる工務店を改めて募り再スタートしたものといます。これまで多くの建築家が住宅の量産化に取り組んできましたが、設計から施工・運営への一貫した関わりが甘く、なかなかうまくいかなかった。しかし、工務店やメーカーと共に削り上げていくのであれば、やれるのではないかと。僕は、注文住宅だけがいりやうり方だとは必ずしも思わないので、性能が高くてもリーズナブルな価格の家を工務店やメーカーと一緒に提供していきたい、というのがこの計画のコンセプトです。

「一定の住宅品質を保つには、材料の質も一定である必要がありますね」

伊礼「山長さんとは10年先のつきあいで、所有林やプレカット工場にも何回も行っていきますし、自分



写真上、「つくばi-works1.0」の施工例外観。太陽光と太陽熱利用でゼロエネルギーを実現、日本らしいエコハウスを目指した。写真下、内観。置き家具も大工や建具屋でつくる、i-works projectオリジナル

の設計した家でも実際に使ってきました。狂いの少ない、質の高い材料を、しかも一本ずつ性能表示を出して出される、最も信頼できる木材店だと実感しています。僕らの設計では、ここぞというところ以外、あまり構造材を露すことはないので、その「ここぞ」の部分で割れが出たり暴れたりされると困る。でも、山長商店の木材はそういうことがありません。

榎本「目利きの方に認めていただけただけは嬉しいですね。うちは代々受け継いできた所有林がありましたから、その当時あまり行われていなかった無垢材のプレカットに挑戦したんです。一般的にプレカットは大工の手法、つまりノミと玄能の技術を代行するわけですが、それに伴って大工ももっていった材料を見極める目、目利きの技も失われていった。ですが、うちでは「プレカットの基本は手加工にあり」というコンセプトのもと、大工の目利きの技を社員目

で再現するといった技術にこだわったんです。いま柴さんのお父様が「JASの認定材なんて、木がプラスになります。国産材全体に言えることかもしれないですが、材業者と設計者・工務店が、互いに敬意を払ってもっと話をするので、よい関係がつけられるはずなんです。ですから「i-works project」に限らず、いろいろな可能性を、現場の方たちと探っていけたら、と思っています。【聞き手：編集部】



▲山長商店では、林業からプレカット加工まで一貫して行う。和歌山の所有林では、その過程について説明を聞きながらレクチャーを受けることができる。写真は山でレクチャーを受ける伊礼氏
▼プレカット工場では、職人が一本一本無垢材の性質を見極め、適した個所の部材となるように加工する。「i-works project」では見え掛かり部分の部材加工にも対応した

GUEST PROFILE

<p>(左) 榎本崇秀 山長商店 取締役副社長 2001年早稲田大学第一文学部を卒業後、ナイスを経て、2004年山長商店に入社。2011年より現職</p>	<p>(中央) 伊礼智 伊礼智設計室 代表取締役 1982年琉球大学理工学部建設工学科卒業後、東京芸術大学美術研究科大学院修了。丸谷博男+エーアンドエーを経て、96年伊礼智設計室開設。</p>	<p>(右) 柴修一郎 柴木材店 代表取締役社長 1999年法政大学経営学部卒業後、三菱UFJ信託銀行を経て、柴木材店に入社。2013年に代表取締役社長に就任し、現在に至る</p>
--	---	---

分らない工務店が使うもの」と言われたというお話が出ましたが、ある意味ではそのとおりです。これまで大工頼みだった木への信頼や安心感を、JASという公的基準で科学的に「見える化」して、木を知らない一般の方でも、安心して家が建てられるようにしたいというのが私たちの思いです。

長さんの強みだと思います。乾燥もかなり工夫されていますよね。
榎本「数年前から「高温蒸気式減圧乾燥」という手法を採用しています。天然乾燥は香りがよく、色も美しいのですが、不規則な変形や割れが起こりやすいこと、なによりしっかり乾燥させるには時間がかかることが難点です。そうした点を解消するために高温乾燥が誕生したのですが、内部割れや、大きな材だと中まで十分に乾燥しないといった問題があり、色も悪かったです。そこで現在は高周波式や加熱水蒸気式などの方式が普及しまし

た。そのなかでも減圧乾燥を選んだのは、一般的な乾燥機よりも低い温度で乾燥できるため木の色艶がよく、断面が大きく乾燥が難しい平角材でも従来より大幅に含水率を下げるのが可能だからです。
伊礼「仕口も丈夫になりますね。柴「うちも初めて使いましたが、本当に施工上の収縮はなかったですね。大工も、自分が建てた家は気になるので、竣工後に何度も確認に行っていました。狂いもないし割れもない」。

榎本「メンテナンス費用が減った」と工務店さんに言われることもありますが、安定しているのはとても重要なことだと思います。
伊礼「私たちも、もっともっと設計者や工務店の方と話をしたいと思っています。プレカットを始めたら、たくさんの方の設計者や工務店さんからいろいろなことを教わりました。私たちは木を見ることはできません、その木を活かすための現場での施工や意匠の知識はありませんでした。そういうことを一つひとつ教えてもらって今があります。でも私たちがまだ知らないこと、気づかないことを要望として聞かせてほしい。枠材や階段材の加工も「i-works project」で伊礼さんからの提案で初めて商品化しましたが、これはうちで余っていた材を再加工したものです。家をつくる側の要望や希望を満たす材を、リーズナブルな価格でお出しできれば、両者にとって

建築知識 共催セミナー

「i-works project」からみる、これからの木材選び
伊礼智が解説！設計の標準化を支える木材とは

講師：伊礼智氏 (伊礼智設計室)
日時：11月12日 (水) 11:50~12:50
ぜひ会場にお越しください！